

そんなにしてまでなぜ生きる

どんなに苦しくとも、生きねばならないのはなぜか？

「なぜ生きる」のテーマを詳しく学びましょう。

◆「なぜ生きる」の問い

人は苦しみにあうと「なぜ？」と問わずにいられなくなります。

連日の残業に、「何でこんなに仕事をしないといけないんだ」と思ったり、突然の大病に「自分だけがなぜ……」と肩を落とす人もあります。

学校でマラソン大会があると、走るのが大嫌いな人は、「どうして走らないといけないんだ」と不満を口にします。数学が苦手だと、「なんで数学なんてやらなきゃいけないんだ」と文句を言います。

カラオケ好きに「カラオケに行こう！」と誘って「なぜ？」と問い返されることはありません。憧れの異性にデートに誘われて「なぜあなたとデートしなきゃいけないんだ」と不平を漏らす人もないでしょう。

生きることが、ただそれだけで楽しく、幸せなことなら、誰も「なぜ生きねばならないの？」と問うことはありません。

生きることそれ自体が、大変なことで、苦しいことだからこそ、「なぜ生きる？」と問わずにいられないのです。

そして、その答えがハッキリしてこそ、どんな苦しみをも乗り越えて生きる力が湧いてきます。

ドイツの哲学者・ニーチェは『道徳の系譜』に、なぜ生きるかが分かれば、「人間は苦悩を欲し、苦悩を探し求めさえする」と書いています。

方向さえ正しければ、速く走るほど早く目的地に着きますから、損をする苦労は一つもありません。生きる目的成就のためなら、時間、体力、お金をどれだけ使っても、百パーセントそれらは生かされます。使い捨てにはならないのです。

人生に苦しみの波は絶えませんが、生きる目的を知った人の苦労は、必ず報われる苦労です。人生は素晴らしい、と言う人もいれば、何をやってもむ

なしい、と言う人もいます。

「なぜ生きる」の答えを知るか、否かの違いと言えましょう。

◆苦しくとも生きねばならぬ理由は何か？

「なぜ生きねばならないの？」

この問いを突きつけられた時、どのように答えるでしょうか。

数年前、東京都大田区で小学六年生の女子児童二人が一緒にマンションから飛び降りて自殺したというニュースに、世間が衝撃を受けました。飛び降りたとみられる階段の踊り場には、二人の靴がそろえて置かれていたといえます。中学受験を苦にしていることといわれていますが、未来ある子供が自ら命を絶つ事件に、誰もが心を痛めました。

かつて「テスト戦争」という詩を残し、小学五年生の男の子が、高層団地から飛び降り自殺をしました。それは、次のような内容でした。

紙がくばられた

みんなシーンとなった

テスト戦争の始まりだ

ミサイルのかわりにえん筆を打ち

機関じゅうのかわりに消しゴムを持つ

そして目の前のテストを敵として戦う

自分の苦勞と努力を、その中にきざみこむのだ

テストが終わると戦争も終わる

テストに勝てばよろこび

負ければきずのかわりに不安になる

テスト戦争は人生を変える苦しい戦争

勉強してどうなるのか、やくにたつ、それだけのことだ、

勉強しないのはげんざいについていけない、いい中学、

いい高校、いい大学、そしていい会社これをおつてい

ってどうなるのか、ロボット化をしている。

こんなのをおつていい人生というものをつかめるのか。

これが、小学五年生の書いたものとは驚きです。

子供の目は素直です。もし、この男の子に、

「大人は、一生懸命に勉強せよと言う。じゃあ、いい大学、いい会社に入っ

た大人は幸福になっっているの。エリートコースを進んだ人が自殺しているよ。

何のために勉強するの。勉強すれば、本当に幸福になれるの」

と問われたら、何と答えるでしょう。

日本における十五歳から四十歳未満までの死因のトップは自殺です（令和

二年）。この事態を何とか食い止めなければと政府も対策を講じてはいるも

の、歯止めがかかりません。それどころか、政府の自殺対策機関の委員で

もあった現役の閣僚が自ら命を絶ち、大きく報じられたこともありました。

「生きなきゃダメ」

「今はつらくても、生きていればきつといいことがあるから」

と励まして、「どうして?」「何を根拠に?」と問い返されたら、言葉に詰

まってしまうのではないでしょうか。

どんなに苦しくても、なぜ生きねばならないのか。最も大事な「生きる目

的」が示されないまま、ただ苦しみに負けず「生きよ」「頑張れ」「死ぬな」の連呼では、ゴールのない円形トラックを回り続けるランナーに、鞭打つようなものでしかありません。

「人生には、なさねばならない目的がある。どんなに苦しくても、生き抜かなくては」と、生きる目的が鮮明になってこそ、真に、明るくたくましい人生が開かれるのです。

◆「なぜ生きる」の答え

私たちは何のために生まれてきたのか、何のために生きているのか。どんなに苦しくとも、なぜ自殺してはいけないのか。これが「人生の目的」であり、平たい言葉で「なぜ生きる」といいます。

私たちは苦しむために生まれてきたのではない。生きているのでもありません。すべての人は皆、幸せになるために生まれてきたのです。ですから、「なぜ生きる」の答えを一言で言うならば、「苦悩の根元を解決し、人間に生まれてよかったといえる幸せになること」といえましょう。

仏教を説かれたお釈迦さまは、すべての人は「人間に生まれてよかった」という「絶対の幸福」になるために生まれてきたのであり、人間に生まれたことは大変喜ぶべきことであると、次のように教えられています。